

● 研究の意義、方法の適切さを示すために 書くべき 6つとその順序

項目1：「世の事実とその問題点（疑問点）」

→ 例 「ベガルタ仙台（サッカーチーム）は走りが強い。他チームと比較してもダントツだ。」

項目2：「1を前にして、どのような問いを明らかにするか？」（1に関する情報蒐集と研究的視点の理解度から得られる）

→ 例 「ベガルタ仙台の走りが強いのは、〈何が原因か？〉」

項目3：「それが明らかになるとなぜ良いか？」

→ 例 「原因を応用して、いずれ、継続的勝利へと導くことも可能かも」

項目4：「過去の人が2を明らかにした事例と問題点」（先行研究の批判的検討，酒井本にはこの項目なし）

→ 例 「A氏は原因が監督の指導法Bにあるという。でも指導法B廃止以降も走力変化なし」

項目5：「問いを明らかにするためのヒントは？」（研究での創造性はここで出す）

→ 例 「牛タンがヒントかも。なぜなら、実際、選手はそれをよく食べているし、栄養がある。」

項目6：「5をふまえつつ、2をどのような方法で明らかにするか？」

→ 例 「〈原因は牛タンを食べているから〉という仮説を検証する」

上は、以下の資料を参考として、本授業の文脈に合わせるために修正を加えたもの。

酒井聡樹『これから学会発表する若者のために：ポスターと口頭のプレゼン技術』共立出版、2008年、25-38頁。

● 各自の研究計画を、あえて、仮説検証型の手続きにあてはめてみる（ただし、簡単ではないはず）。

項目1：「世の事実とその問題点（疑問点）」

→

項目2：「1を前にして、どのような問いを明らかにするか？」（1に関する情報蒐集と研究的視点の理解度から得られる）

→

項目3：「それが明らかになるとなぜ良いか？」

→

項目4：「過去の人が2を明らかにした事例と問題点」（先行研究の批判的検討）

→

項目5：「問いを明らかにするためのヒントは？」（研究での創造性はここで出す）

→

項目6：「5をふまえつつ、2をどのような方法で明らかにするか？」

（＝美大院創作系では「●●な作品をつくって仮説を検証する」となる）

→